

令和5年度「性」の多様性に関するアンケート 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

Q10「性的少数者が日常生活において直面していると思われる問題」について、「理解が十分でないことによる誤解や偏見があること」と回答した方が最も多く、7割に及びました。横浜市では、当事者支援のほか、市民向けイベントや企業向け研修など、多様な性のあり方について理解を深めるために様々な取組を行っています。このようなご意見を参考にしながら、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に寛容な社会の実現を目指し、市民・事業者・団体のみなさまなどに向けた啓発及び研修を実施していきます。

2 アンケートを実施した感想

「LGBT」の認知度を確認する Q13 から Q18 までの質問において、「性的少数者」、「レズビアン」、「ゲイ」、「バイセクシュアル」等については7割から8割の方が認知している一方で、「SOGI（ソジ・ソギ）」については1割程度にとどまっていました。「LGBT 理解増進法」が施行され、「性的指向」、「ジェンダーアイデンティティ」という言葉が法律に盛り込まれました。性的少数者に関する報道が目立つなかで、一人ひとりに性のあり方があり、LGBT の人だけではなく、すべての人が多様な性の当事者であるということについて、更なる啓発が必要であると受け止めています。

また、Q4 から Q5 までの質問では、家族または友人から性的少数者であることを打ち明けられた場合に理解者になれるか聞きましたが、「友人」よりも「家族」のほうが、理解者になれると回答した割合が1割以上低い結果となりました。多くの人にとって最も身近な存在である家族だからこそ巻き起こる葛藤が垣間見えましたが、まずはカミングアウトしてきた家族の心に寄り添い、話を聞くことの大切さを伝えていきたいと感じました。

3 担当部署の e アンケートメンバーへのメッセージ

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

性的少数者に関する認知度やそのイメージなどを具体的に伺うことができたほか、本市の取組への激励を含め、様々なご意見をお寄せいただきました。

今回いただいたアンケート結果を今後の性的少数者等支援事業の施策に活用するとともに、「一人ひとりの市民が互いの人権を尊重しあい、共に生きる社会」の実現を目指して、市民・事業者・団体のみなさまなどに向けた啓発及び研修を実施していきます。

担当：市民局人権課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。